

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年3月16日

【評価実施概要】

| | |
|-------|---|
| 事業所番号 | 3671300428 |
| 法人名 | 有限会社 慈恵会 |
| 事業所名 | グループホーム 花乃苑 |
| 所在地 | 徳島県阿南市羽ノ浦町中庄大久保78 (電 話) 0884-44-1331 |

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 |
| 訪問調査日 | 平成20年 3月 11日 |

【情報提供票より】(平成20年2月26日事業所記入)

(1)組織概要

| | |
|-------|--|
| 開設年月日 | 平成 16 年 7月 1日 |
| ユニット数 | 2 ユニット 利用定員数計 18 人 |
| 職員数 | 14 人 常勤 8人, 非常勤 6人, 常勤換算 ひまわり 5.8人, さくら 6人 |

(2)建物概要

| | | |
|------|--------|-------|
| 建物構造 | 鉄骨 造り | |
| | 1 階建ての | 1 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------|----------------|-----|-------|
| 家賃(平均月額) | 25,000 円 | その他の経費(月額) | 円 | |
| 敷 金 | 有(円) | (無) | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有りの場合 償却の有無 | 有/無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 250 円 | 昼食 | 400 円 |
| | 夕食 | 400 円 | おやつ | 50 円 |
| | または1日当たり 円 | | | |

(4)利用者の概要(2月26日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名 | 男性 | 5 名 | 女性 | 13 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 3 名 | | |
| 要介護3 | 10 名 | 要介護4 | 3 名 | | |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 82.6 歳 | 最低 | 70 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5)協力医療機関

| | |
|---------|-----------|
| 協力医療機関名 | ・村上内科外科医院 |
|---------|-----------|

徳島県 グループホーム花乃苑 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした田園地帯の中にあり、四季折々の風景を感じながら過ごせる環境である。地域のなかの一員として利用者の生活を支援していくという意気込みが全職員にもよく浸透しており、利用者への言葉かけや対応にもよく表れていた。運営者は頻繁に事業所を訪れ利用者と共に過ごす時間を持ったり、職員へも細やかな心配りをする等、全員が和やかな雰囲気の中で生活していた。

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 感染予防のため洗面所の共用タオルをペーパータオルにする等、前回評価での改善課題については全職員が検討し、全て改善されている。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | サービス評価の意義や目的を理解し、全職員で自己評価を行うなど、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:4、5、6) |
| | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者代表、家族代表、地域包括支援センター職員、地域住民、民生委員、事業所関係者により構成されている。内容は、事業所の活動報告や出席者からの意見、要望等の話し合いが行われサービス向上に活かされている。会議内容は記録に残し、全職員に回覧され確認印が残されている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) |
| | 3ヶ月に1回「花乃苑だより」を発行し、手紙や写真を添えて生活状況を報告している。玄関に意見箱を設けたり、来訪や電話の際にも意見を聞くなど、要望等を伝えやすい工夫を行っている。また、意見や要望等はミーティングで話し合い、サービスの改善に反映させている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 日常的な散歩や「花乃苑だより」の配布を通じて地域住民との交流のきっかけ作りを行っている。さつま芋の種付けやイモ掘り等に近隣の幼稚園やグループホームを招待し、交流を深めている。また、経営者と民生委員は同じ町内会の住民であり、積極的に情報交換を行う関係が築かれている。 |

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域密着型サービスとしての役割を認識し、利用者が地域との関係を維持しつつ、安心してその人らしい暮らしを継続するための支援を念頭に「ゆったり、楽しく、いっしょに、今のあなたを大切に」という事業所独自の理念を掲げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 管理者、職員は、常に理念を共有し、ミーティング等で話し合い具体的なケアに活かせるよう意識の統一を図っている。利用案内文やホームのリビングなど目につきやすい所へわかりやすく掲示し、利用者、家族、来訪者へも理解してもらう工夫をしている。 | | |
| 2.地域との支え合い | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 近隣への散歩時には、気軽に地域の人達と挨拶を交わしている。ボランティアによる毎月の茶話会や近くの幼稚園児の定期的な来訪がある。また、近くのグループホームの人達にも参加してもらい芋掘りを行うなど、積極的な交流に努めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員は評価の意義をよく理解し、ミーティング等で常に話し合い課題の改善に向けた取り組みを行っている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、利用者代表、家族代表、地域包括支援センター職員、地域住民、民生委員、事業所関係者により構成されている。内容は、事業所の活動報告や出席者からの意見、要望等の話し合いが行われサービス向上に活かされている。会議内容は記録に残し、全職員に回覧され確認印が残されていた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村への訪問や電話等で情報収集や意見交換等を行う関係を築いており、積極的に交流することで共にサービスの向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 3ヶ月に1回「花乃苑だより」を発行し、手紙や写真を添えて生活状況を報告している。また、来訪や電話でも必要に応じて伝えている。金銭出納簿は領収書と共に定期的または家族の来訪時に見てもらい確認印をもらっている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関には意見箱を設置し、来訪時に要望等を出しやすい工夫を行っている。意見等はすべて記録に残し、全職員で課題を検討し、運営に反映させるよう取り組んでいる。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 基本的に異動はなく、顔なじみの職員が対応できるよう配慮している。やむを得ず異動の必要があった場合は、引き継ぎを十分に行う等、利用者の不安を和らげ信頼関係を早く築けるよう努めている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 運営者、管理者は職員の資質向上に熱意を持っており、定期的な年間研修計画を提示し、段階に応じた受講ができるよう配慮している。また、随時の研修会にも必要に応じて受講を勧めている。研修内容は記録に残され、職員間で共有された記録もある。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 相互訪問や研修会での事例検討等を通じて、同業者との交流や情報交換の機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係作りと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用開始前に利用者や家族に見学してもらう等、希望や不安を受け止め安心して生活に馴染めるよう配慮している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 利用者を人生の先輩として敬い、喜怒哀楽を共感し合うなど共に過ごし、お互いを気づかうような会話など支え合う関係が築かれている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の会話や表情から利用者の希望や思いを把握するよう努めている。また、意向の把握が困難な方は、家族や関係者から趣味や好きなこと等の情報を得て、本人本位な暮らしができるよう支援している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者との会話や日々の関わり、家族からの意見等を参考に話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的な見直しのほか、変化が生じた場合は利用者や家族、主治医等の関係者と話し合い随時現状にそった計画を作成している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制をとっており、健康面において安心感がある。また、利用者、家族の状況に応じて急な通院や外出支援など柔軟に対応できるよう取り組んでいる。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関の医師による週2回の往診のほか、家族との連携により利用者が希望するかかりつけ医への通院介助を行うなど、適切な医療が受けられるよう支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合や終末期の在り方について本人や家族、かかりつけ医等と相談して明文化し、意向にそった支援ができるよう方針を共有している。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者の誇りやプライバシーを尊重し、穏やかで優しい言葉づかいや対応に配慮している。また、個人情報は利用目的を明確に文書化し、取扱いに配慮している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者一人ひとりのペースに合った生活ができるよう、体調や気持ちを尊重し、入浴のタイミングなど希望にそって支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や後片付け等を一緒に行うなど利用者の力に応じた支援を行っている。介助が必要な方にはさりげなく対応しながら、同じテーブルを囲み楽しい食事の雰囲気づくりに配慮している。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、いつでも入浴できるよう努めている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 食事の準備や掃除、洗濯物の片付けなど利用者の力に応じた役割を希望に応じて無理なくできるよう支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 可能な限り外出の機会を作り地域の人達や自然と触れ合うことをホームの方針としており、利用者の希望や体調に配慮しながら、近所への散歩に出かけている。周辺はれんげ、ひまわり、コスモス、稲穂など四季折々に変化する風景が楽しめる環境にある。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 全職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、日中、玄関は常に解放されている。玄関にはチャイムがあり、さりげない見守りと併せて安全面への配慮を行っている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 災害対策マニュアルの作成と、消防署の指導のもと年2回の避難訓練を行っている。また、運営推進会議を通じて地域住民や民生委員会の協力を得られるよう働きかけている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 協力医療機関の栄養士の助言を受けて、利用者の希望を取り入れながら栄養バランスに配慮した柔軟な献立が作られている。また、食間や入浴後の水分補給にも細やかな配慮がなされている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 広々とした玄関や大きな窓から明るい日差しが降り注ぐ居間、こたつのある畳の間、田園風景が一望できるソファが配置されたコーナーなど、居心地よく落ち着いた空間づくりがなされていた。また、雛飾りなど季節感が感じられるような工夫もされていた。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具を持ち込んだり、家族の写真を飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫されている。居室は広く、家族と一緒に泊まれるよう配慮されている。また、木造の腰板がより家庭的で落ち着いた部屋の雰囲気を醸し出していた。 | | |